

evo 4

2in/2out Audio Interface



User Manual 6.0

WELCOME

EVO 4をご購入頂き、ありがとうございます。本機は、オーディオやコーディング分野のテクニカルな部分に煩わされることなく、クリエイターが制作に没頭できるように本機をデザインいたしました。

本機は、『スマートゲイン』テクノロジーを備えた2機のハイパフォーマンスのプリアンプ、高音質のJFET インストルメント入力、高性能AKMコンバーター、パワフルなヘッドフォンアンプを備えています。

本機EVO 4でクリエイティブな試みをお楽しみください。

“もっと楽しみながらプロジェクトを進めてもいいんじゃないか ...”



EVO makes recording easy

01 オーバービュー

スマートゲイン
チャンネル 1 + 2
モニターミックス + パン
ファンタム電源
ボリュームノブ
アウトプットボリューム

02 安全にご利用頂くための注意

03 インストール / セットアップ

04 ARCの登録方法

05 ハードウェアの特徴

マイクプリとラインレベル入力
スマートゲイン
ステレオリンク
ファンタム電源
インストルメント入力
ヘッドフォン出力
モニター出力
スマートミュートイング
モニターミックス
モニターパン
ボリュームコントロール
ミュートイング

06 EVO 4 アプリケーションソフト

EVO コントロール・ソフトウェア
ループバック・ミキサー
EVO設定のセーブとリコール

07 オーディオ ループバックの設定

08 スペシフィケーション

09 ファームウェアのアップデート

10 品質保証に関して

OVERVIEW

01 スマートゲイン

スイッチを押しスマートゲイン モードに入ると、演奏又は歌うだけで自動的にゲインレベルを設定します。

02 チャンネル 1 + 2

スマートゲインによる両チャンネルのゲインリンク設定、ホールドによるミュートが可能です。

03 モニターミックス + モニターパン

モニターミックスとモニターパン、二つの機能を備えています。

モニターミックス：レコーディング時のレイテンシーを軽減できる入出力のブレンド機能。モニターパン：モニターする入力信号のL&Rバランスが設定できます。

04 USBバスパワー → ファンタム電源

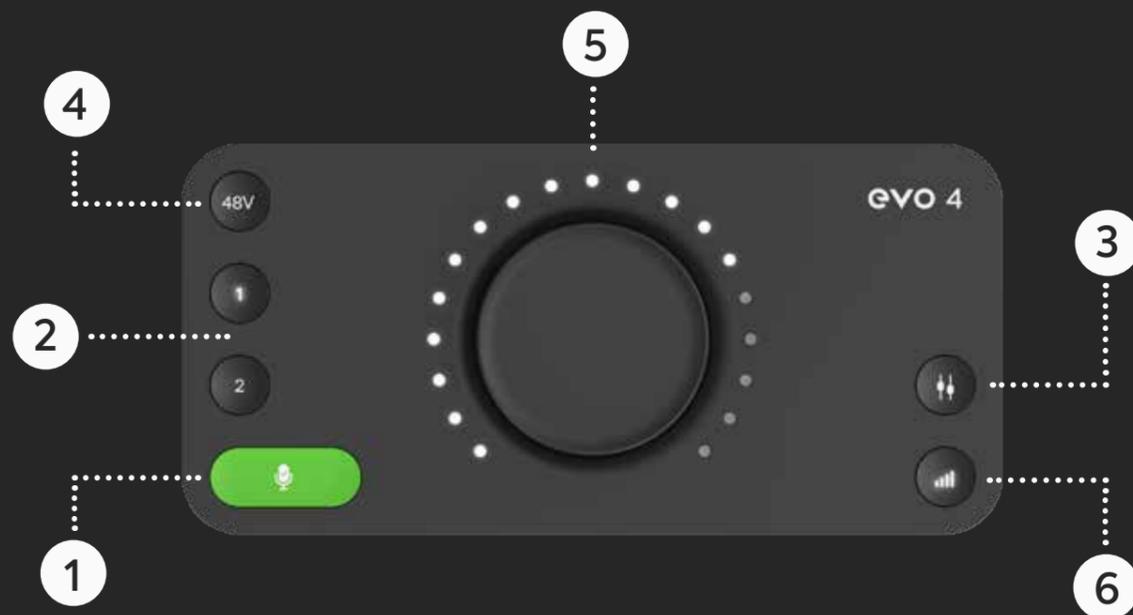
USBバスパワー電源からコンデンサーマイク用のファンタム電源を供給できます。

05 ボリューム ノブ

スピーカー、ヘッドフォン、チャンネルをこれ一つでコントロールできます。

06 出力ボリュームボタン

ヘッドフォンとスピーカーのレベルを設定します。



安全にご使用頂くための注意

付属のUSBケーブルでEVO 4に電源投入する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をお読みください。

本機は高電圧で動作していませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。
その際はまずaudientのサポート：audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

- 
- 01 マニュアルをよく読んでください。
 - 02 マニュアルを保管しましょう。
 - 03 『注意や警告』を守りましょう。
 - 04 インストラクションには従ってください。
 - 05 水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
 - 06 クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
 - 07 ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。
 - 08 本機に接続されているケーブル類に注意してください。
 - 09 本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
 - 10 近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時はコンピューターの電源を切りましょう。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
 - 11 水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。

WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

インストール / セットアップ

macOSでは、EVO 4はドライバー無しでも動作します。
Loopbackの使用やファームウェアのアップデート用にEVO applicationをインストールすることをお勧めします。

[EVO 4 downloads page](#) ページからアプリをダウンロードし、
図のように.dmg fileをドラッグ&ドロップします。

EVO 4をMacのUSBポートに接続します。
ご使用中のMacにUSB-Aポートがない場合は、アダプターか dongle が必要です。

ここで、システム環境設定を開き、EVO 4をメイン入出力に選びます。



System Preferences > Sound



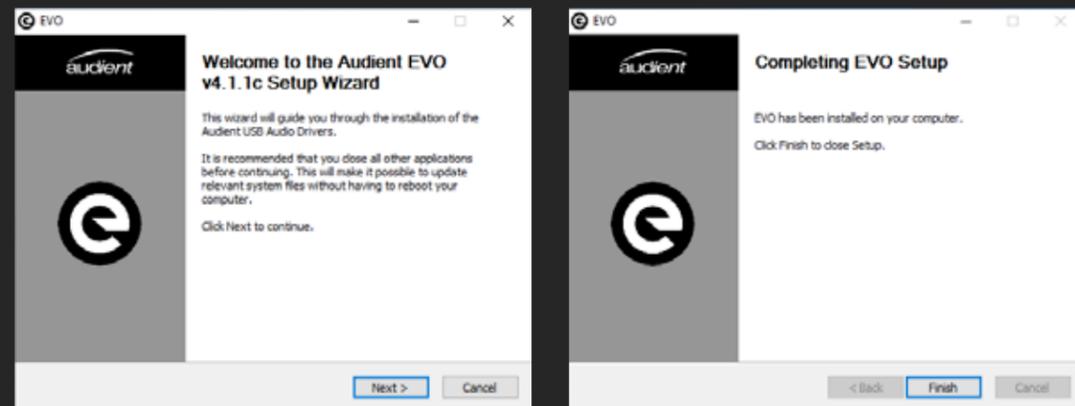
Select EVO 4 as input / output



インストール / セットアップ

EVO 4をWindows OSで使用する際はドライバーソフトが必要です。
EVO 4の [downloads page](#) からダウンロードしてください。

ダウンロード完了後.exe fileを起動し、インストールを開始してください。
スクリーンに従ってインストールを完了してください。このプロセスは少々
時間がかかるかもしれません。



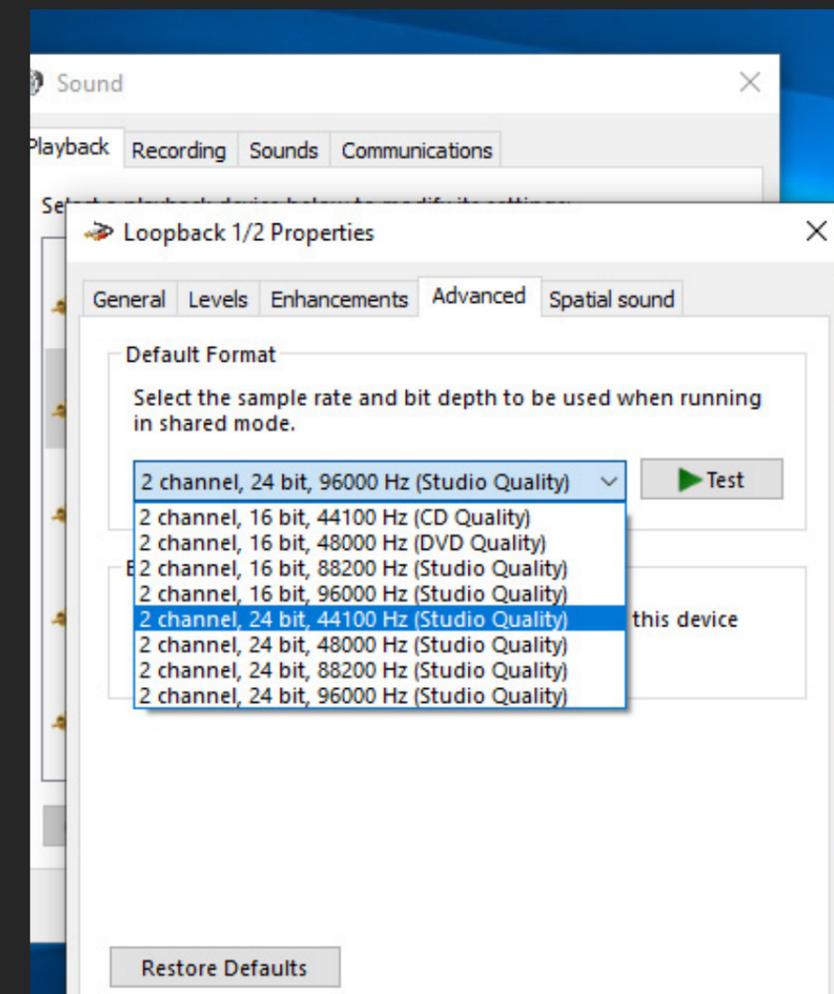
インストールが完了したら、FINISH（完了）をクリックして下さい。
ここで、EVO 4を付属のUSBケーブルでコンピューターと接続します。

EVO 4をサウンドデバイスとして設定するには、Control Panel > Hardware and Sound > Soundの順に進み、Playback（再生）タブを選びます。

リストからEVO 4 Main Output 1+2をクリックし、デフォルトデバイスに
evo 4を選択します。

サンプルレート、バッファサイズなどの設定は、後のセクションをご覧ください。

Control Panel > Hardware and Sound > Sound



インストール / セットアップ

EVO 4 はiOSやiPadOSデバイスでもご使用頂けます。
これらは接続方法が異なりますので、それぞれについて以下で説明します。

iPAD PRO (WITH USB-C PORT)

EVO 4と iPad Proの接続は、USB-C⇔USB-Cケーブルを使用します。
iPad Proの USB-Cポートは、USB バスパワー供給が可能です。
この接続ではEVO 4の使用に外部電源は必要ありません。

接続が完了すると、自動的にEVO 4がサウンドデバイスになります。



iPAD, iPAD AIR, iPHONE (WITH LIGHTNING PORT)

ライトニングポートを使用してのEVO 4とiOSデバイスの接続は、
以下のインストラクションに従って下さい。

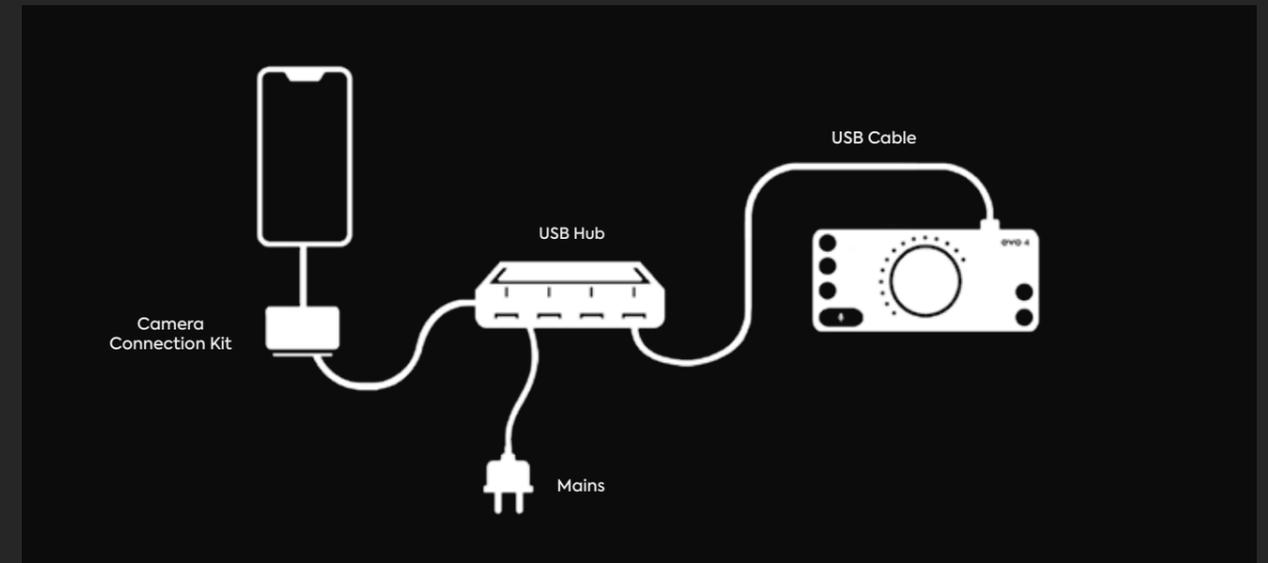
- 01 APPLEカメラコネクションキットが必要です。
- 02 アクティブUSBハブが必要です。



使用するアクティブUSBハブは、ライトニングポートがあり、
更にEVO 4に十分なバスパワーが供給できることが必須です。

まずカメラコネクションキットをiPadに接続します。
次にUSBハブとカメラコネクションキットをつなぎます。

USBハブと電源を接続してから、EVO 4をUSBハブにつなぎます。



接続が完了すると、EVO 4が自動的にサウンドデバイスに設定されます。
このセットアップでCubaseやAuria Proなどのアプリでレコーディングする際は、
それらのソフトウェア（アプリ）の資料を参考にして下さい。

audient ARCの登録方法

EVO 4には、レコーディングに必要なプロフェッショナルソフトやサービスがバンドルされています。

audient.com/ARC にアクセスして登録します。

初めての場合は「New to ARC? Sing up」に名前、e-mail、パスワードを登録します。既に登録済みの場合は、「Already a member? Sign in」からサインイン（ログイン）します。

2.製品の登録ページです。

- ・ Name = 名前
- ・ Email = メールアドレス
- ・ Password = パスワード
- ・ Password confirmation = パスワード（再）
- ・ Product = お持ちの製品名を選択
- ・ Serial number = シリアル番号 / EVO 4のシリアルナンバーと4デジットPINが本体の底に貼られています。

登録したメールアドレスに、「Audient ARC - Email Verification」という認証メールが送られてきます。メール内の「Verify Email」またはリンクをクリックすると、アカウントが認証されます。

バナーをクリックすると、各パワフルなツールの登録画面に移動します。

REGISTRATION



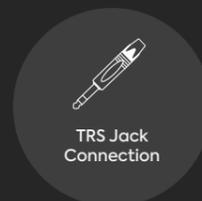
REGISTRATION

ハードウェアの特徴

マイクプリとラインレベル入力

本機には、コンボコネクターの2xハイクオリティマイクプリが、リアパネルにあります。下図参照。

マイクの接続にはXLRケーブルを使用します。



HARDWARE

ラインレベルのデバイスは1/4"TRSジャック（コンボコネクターのセンター）に接続します。ライン入力の接続には自動的にレベルが調整され、入力のオーバーロードを防ぎます。これらにはキーボードやドラムマシーンを接続します。

EVO 4は、完璧なレコーディング信号レベルが得られるように、レベルを8dB下げ、50dB上げることができます。



入力ボタンを押してボリュームノブを回し、マニュアルで変更できます。その際、ノブの周りのLEDがゲインレベルを表示します。

HARDWARE

ハードウェアの特徴

マイクプリとラインレベル入力

EVO 4のスマートゲインは、曖昧なゲインレベル設定ではなく、完璧な設定を早く & 簡単に行ってくれます。

スマートゲインの設定方法は次のページをご覧ください。

スマートゲインがゲインレベルを設定したら、微調整が必要であれば入力ボタンを押してボリュームノブで可能です。

スマートゲイン

EVO 4の最もエキサイティングな機能がスマートゲインです。
演奏や歌うだけで自動的にゲイン設定してくれます。



Activate



Play



Record

Setup

- | | | | |
|--|----------------|--|--|
| <p>1 スマートゲインボタンを押して始めます。</p> | | <p>5 スマートゲインボタンがレッドに点滅始め、ボリュームノブのLEDが点灯し本機が認識していることを表します。</p> | |
| <p>2 スマートゲインLEDがグリーンに点灯します。入力チャンネル (1&2) が点滅します。</p> | | <p>6 マイクやインストルメントから信号を入れます。</p> | |
| <p>3 調整する入力チャンネル (1or2, 1+2) を押します。</p> | <p>1
2</p> | <p>7 スマートゲイン モードが正しいレベル設定を行い、それが完了するとスマートゲインボタンがグリーンに2回点灯して完了を表示します。</p> | |
| <p>4 再度スマートゲインボタンを押し、スマートプロセスを始めます。</p> | | <p>8 これでレコーディングを開始する準備ができました。</p> | |

ステレオリンク



1、2両入力のゲインをマッチさせ、L&Rチャンネルを同レベルにリンクすることができます。

この設定は、ピアノやギターの2xマイクのステレオ録音や、シンセやドラムマシンのステレオ信号に使用します。

この設定は1、2ボタンを同時に押してゲイン設定を行います。

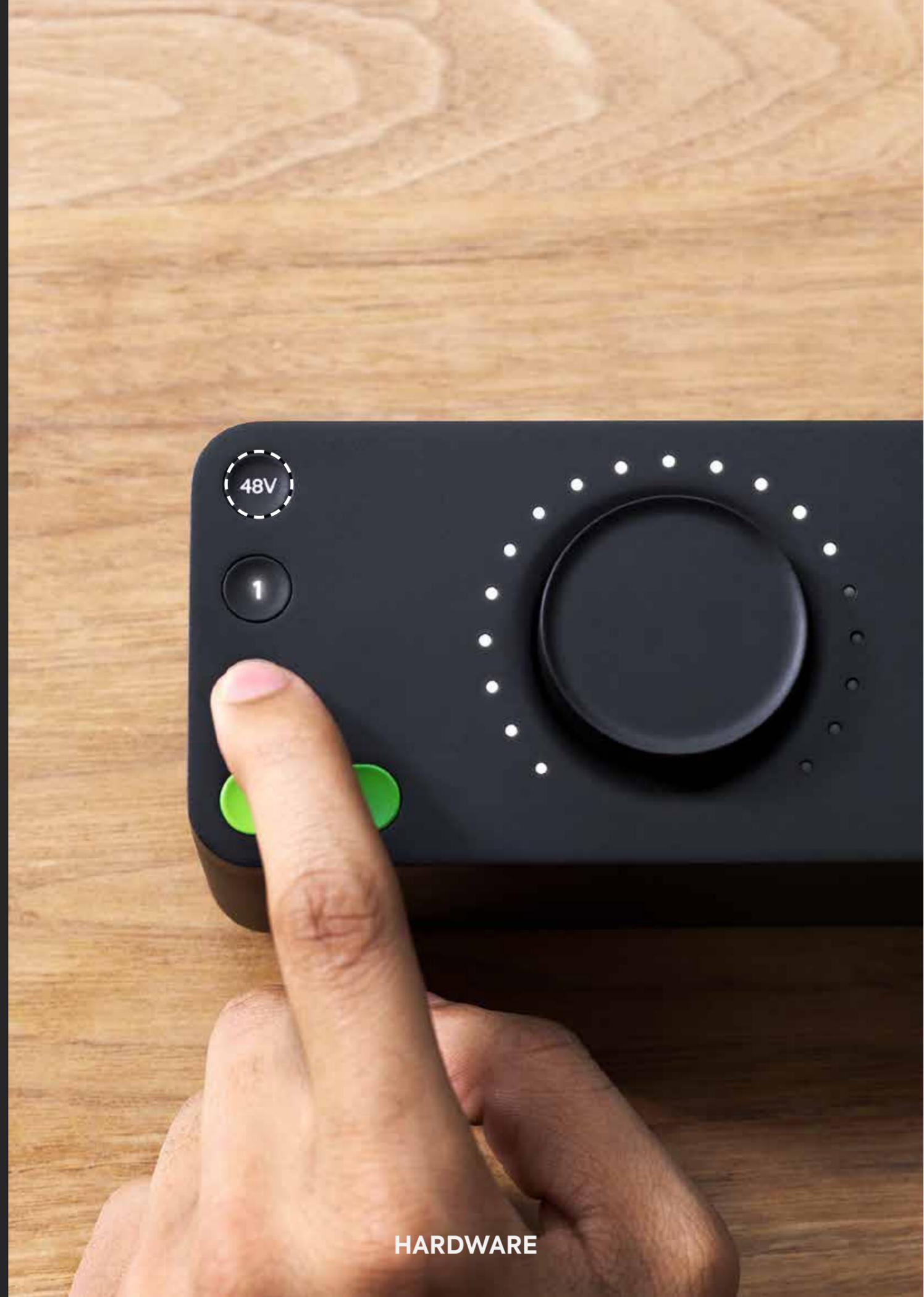
ファンタム電源



一般的にコンデンサーマイクの使用にはファンタム電源が必要です。48Vの電源はXLRケーブル経由でマイクロフォンに供給されます。

稀にファンタム電源がマイクロフォンにダメージを与える場合がありますので、マイクの説明書をよく読んでください。

EVO 4のファンタム電源の投入は、チャンネルを選択して48Vボタンを押すだけで完了します。このファンタム電源がオンのチャンネルは、LEDがレッドに点灯します。



インストルメント入力

ギターやベースをダイレクトに接続できる入力を装備しています。インストルメント入力は、DI（ダイレクト・インジェクション）として知られ、インストルメントらしい良いトーンが得られるハイインピーダンス入力です。

フロントサイドにあるDIポートは、ギターアンプ入力同様のアンバランスの1/4"ジャックです。

ギターがこのインストルメント入力ジャックに入力されると、マイク/ライン入力からインスト信号がチャンネル1に接続されます。

その際、Mic/Line同様に設定するか、スマートゲインで入力ゲインを決めます。



HARDWARE

ヘッドフォン出力

フロントサイドにヘッドフォン出力を装備しています。このヘッドフォンアンプは、どんなヘッドフォン（インピーダンスが異なる）でも十分なレベルでドライブできます。

この出力にヘッドフォンを接続すると、自動的にモニター出力がミュートされます。

モニター出力

EVO 4は高いクォリティーのペアのモニター出力を備えています。これらの出力はラインレベルでアクティブモニターへの接続が最適です。パッシブモニタースピーカーを使用する際はパワーアンプをお使いください。

これらのモニター出力はTRSのバランス出力です。アンバランスTS1/4"でアンバランス入力のモニターへの接続も可能です。



HARDWARE

スマートミュートिंग

ヘッドフォンジャックにヘッドフォンをつなぐと、モニタースピーカーの出力が自動的にミュートされます。

モニターミックス



レコーディングする際、自身でも確認のためにモニターしたいものです。一部のレコーディングソフトはそれが可能です。

しかし、この方法はコンピューター内で信号をプロセスするために、オリジナル信号から少しの遅れが生じます。これがレイテンシーで、オンタイムのプレイを難しくします。

EVO 4のモニターミックス機能で入力信号を聴く時は、ダイレクトに入力信号を聴いているので遅れがほとんどありません。

このモニターミックスは、EVO 4の出力で何を聴くかがコントロールできます。入力信号のモニター、コンピューターからのプレイバック、両方のブレンドが設定できます。モニターミックスボタンを押しボリュームノブを回すと、現モニターミックスセティングをLEDで表示してくれます。

コンピューターからのプレイバックを聴きたい場合は時計回りに、入力信号を聴きたければ反時計回りに回します。

モニターパン



さらに、モニターパン機能が2入力のセパレーションを可能にします。

この機能は、ステレオソース（ピアノやシンセ）のレコーディングに役立ちます。ステレオソースのモニターやマイク設置にも最適です。

モニター ミックス ボタンを長押ししながら、ボリュームノブでセンター～L&Rチャンネルのパンが設定できます。

ボリュームコントロール



ボリュームコントロールボタンを押して、出力レベルを操作するシンプルなコントロールです。LEDメーターリングがボリュームレベルを表示します。

このボリュームコントロールはモニター、ヘッドフォンの出力もコントロールします。

ミュートिंग



出力と両入力をミュートする機能があります。いずれかのチャンネルボタンとボリュームボタンを同時に長押しすると、入出力ともにミュートされます。

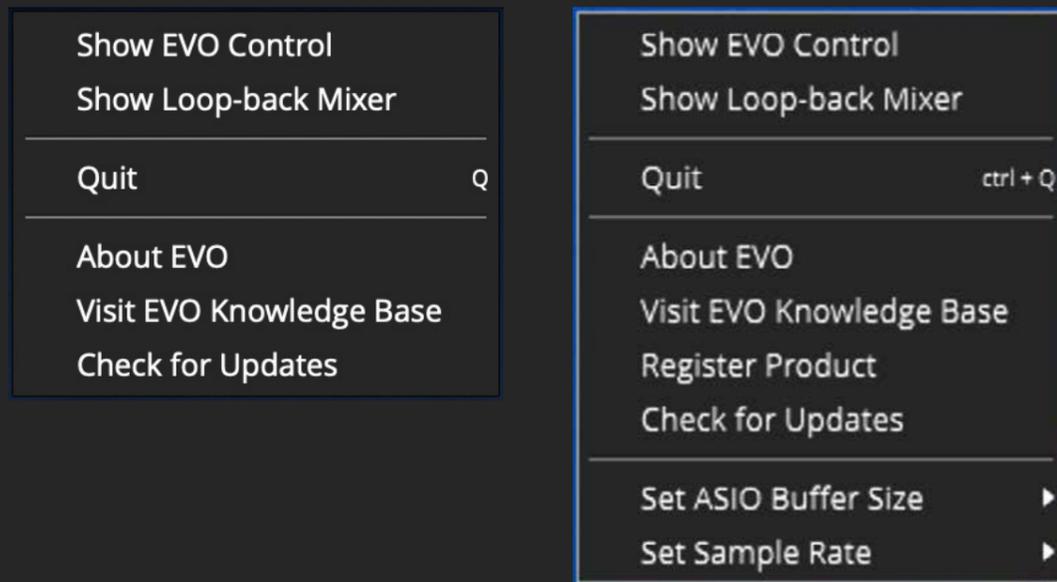
この時、ボタンは点滅してミュート状態を表示します。ミュートの解除は同様にボタンを長押しします。

この機能は、ポッドキャスト中に緊急に止めたいときなど、緊急ミュートできる便利な機能です。

EVO 4 アプリケーションソフト

EVO 4には、コンピューターから簡単な操作ができる簡単なアプリが含まれています。これはmacOSとWindowsの両方サポートしています。

このEVOアプリケーションはMacではメニューバー、Windowsではシステムトレイで動作します。



ループバックミキサーの表示

ループバックミキサーのウィンドウを開き、ループバック入力へ送るオーディオ信号を調整します。

SOFTWARE

EVOコントロールを表示

EVOコントロールのシステムパネルを開くと、Micゲイン、モニターミックスのリモート調整が可能です。

Quit (クイット)

アプリケーションを停止します。

About EVO (EVOについて)

ダイアログボックスが開き、バージョンなどのインフォメーションが表示されます。

Visit EVO Knowledge Base (audientヘルプ)

ダイレクトにaudientのサポートサイトにつながり、FAQガイドやヒント集がみられます（英語）。

Check for Updates (アップデートの確認)

機能の追加やコンピューターOS対応のため、将来EVO 4ファームウェアのアップデートをリリースします。この項目をクリックすると、使用中のEVO 4のファームウェアが確認できます。アップデートの方法に関しては、後のページで説明します。

Set ASIO buffer size (ASIOのバッファサイズ)

ASIOのバッファサイズを変更できます。この設定はコンピューターが如何にハードにオーディオをプロセスするかを設定します。

*Windows Only

Set Sample Rate (サンプルレートの設定)

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHzのサンプリングレートが選択できます。レコーディングに使用するソフト（DAW）のサンプリングレートと一致させてください。

*Windows Only

SOFTWARE

EVOコントロール・ソフトウェア

EVOコントロールは、evo 4をコンピューターからのリモートコントロールを可能にします。トラッキングやミキシングの際に非常に便利です。

1. Main Control Knob (メインコントロールノブ)・・・メイン出力やモニターミックスが、設定によりコントロールできます。
2. Meter Ring (メーターリング)・・・evo 4で再生中のオーディオレベルを表示します。モニターボリュームやモニターミックスが調整されると、メーターは一時的にそのレベルを表示し、オーディオ信号表示に戻ります。
3. Microphone Controls (マイクロフォン・コントロール)・・・2つのマイク入力のセッティングが調整できます。グレーのノブでゲインがマニュアル設定できます。「48V」ボタンはファンタム電源のオン/オフでき、「M」ボタンは入力をミュートできます。チャンネル毎にコントロール&スイッチがあります。
4. Stereo Link (ステレオリンク)・・・1、2両入力をステレオチャンネルとしてリンクします。この設定は、ピアノやギターの2xマイクのステレオ録音や、シンセやドラムマシンのステレオ信号に使用します。

この設定は1、2ボタンを同時に押してゲイン設定やミュートを行います。ファンタム電源のスイッチはそれぞれエンゲージしてください。

5. Monitor Mix Control (モニターミックス・コントロール)・・・スピーカーやヘッドフォンで何を聴くかがコントロールできます。入力信号(マイク)のモニター、コンピューターからのプレイバック、それらのブレンドバランスが設定できます。モニターミックスボタンをクリックし、ボリュームノブを回すと、現モニターミックス・セッティングがドット表示されます。

コンピューターからのプレイバックを聴きたい場合は時計回りに、入力信号を聴きたければ反時計回りに回します。

6. Main Output Mute (メイン出力ミュート)・・・ボタンを押すとメイン出力がミュートされます。スピーカー又はヘッドフォンへ送られる信号をミュートします。

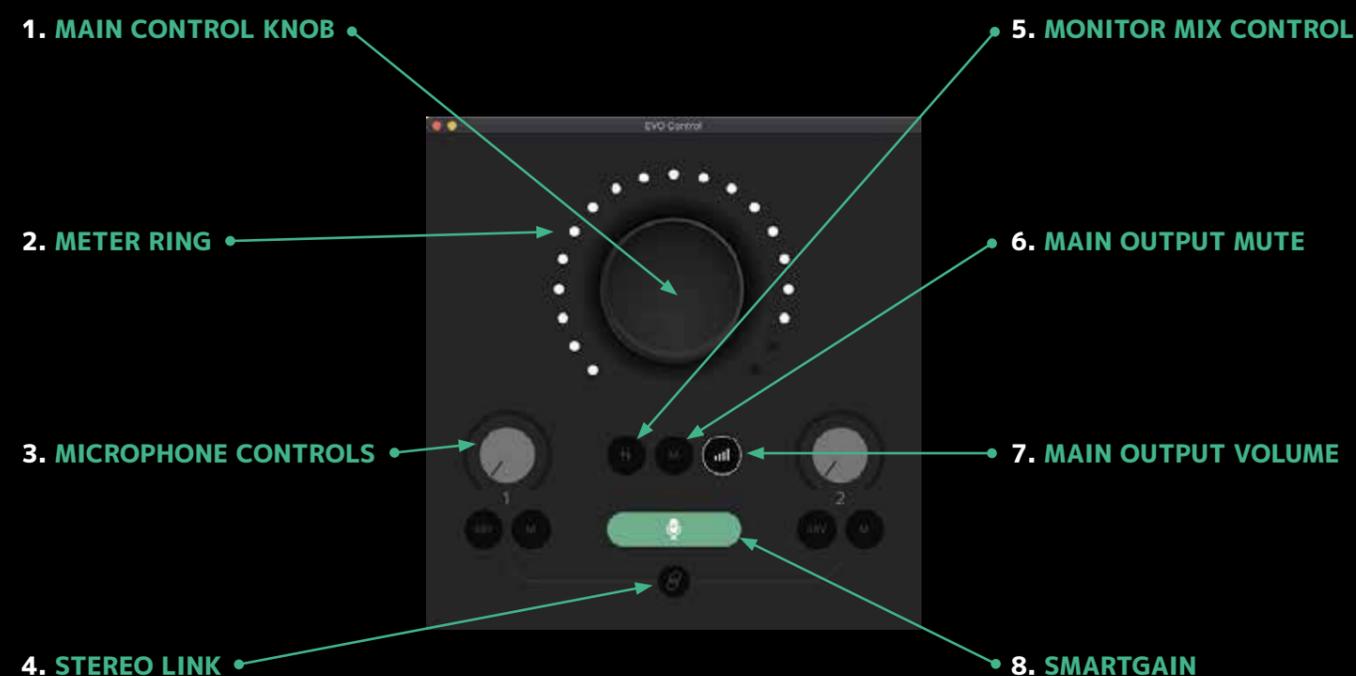
7. Main Output Volume (メイン出力ボリューム)・・・このボタンを押してスピーカー又は、ヘッドフォンの出力レベルを操作します。LEDメーターリングがボリュームレベルを表示します。

8. Smartgain (スマートゲイン)・・・このボタンは「スマートゲイン」をリモート操作します。evo 4本体の「スマートゲイン」ボタンと同様の働きをします。チャンネルを押してからこの「スマートゲイン」をオンにします。すると、evo 4は入力信号のモニターを始めます。

最も大きな信号でプレイするセクションを演奏すると、10秒ほどで自動的にゲインが設定され、グリーンにフラッシュして完了を表示します。

信号が十分感知されないとレッドにフラッシュします。その際はケーブル接続やファンタム電源をチェックしてください。

「スマートゲイン」はステレオリンクでも2チャンネルのゲインを適正にセットします。



ループバック・ミキサー

ループバック・ミキサーを開くと、右図のようなミキサーウィンドウでループバック入力L&R信号がコントロールできます。

コンピューターからのオーディオプレイバック信号を取り出し、レコーディングソフト又は、ストリーミングサービスへ送れます。ゲーム実況やスカイプ会議の録音など、このミキサーで2つの入力信号もブレンドできます。

このミキサーはEVOメニューから、「Show Loop-back Mixer」で開けます。ミキサーは次の2つのチャンネルをループバック入力にブレンドできます。

Mic 1

evo 4 本体の入力1に接続されるMic/Line信号です。パンコントロールでL/Rの定位も設定できます。

Mic 2

evo 4 本体の入力2に接続されるMic/Line信号。パンコントロールでL/Rの定位も設定できます。

DAW 1 + 2

スピーカーやヘッドフォンに出力されるメインプレイバック出力です。ループバックを聴きながらレコーディングやストリーミングをする際は、フィードバックを起さないようにこのフェーダーを下げてください。

Loop-back 1 + 2

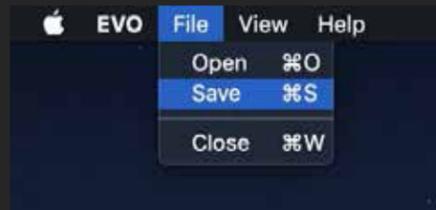
ノーマルのプレイバック出力から独立した、ループバック信号専用の出力です。



EVO設定のセーブとリコール

evo 4のセッティング（ループバック・ミキサーの設定やコントロールパネルの設定）をセーブし、改めてリコールして使用できます。

セーブにはFile > Saveで行います。



保存する設定には名前をつけてセーブできます。

「Export Mixer Setting」をクリックし、他のコンピューターや他のevo 4ユーザーへ保存したファイルを送ることができます。



セーブしたファイルは、File > Openで開き、設定をリストできます。

又、セーブしたファイルは **X** でデリートできます。

evo 4設定をドキュメントから開きたいときは「Load From File」で行います。



AUDIO LOOP-BACK (ループバック)

Macでのループバックチャンネルの使用

ループバックを使用するファーストステップは、コンピューター出力をEVO 4のループバック出力に変更します。他のソフトウェアでは、ソフト内で変更できる場合があります。その方法に関してはソフトウェアメーカーのサポートを受けるか、マニュアルを参照してください。

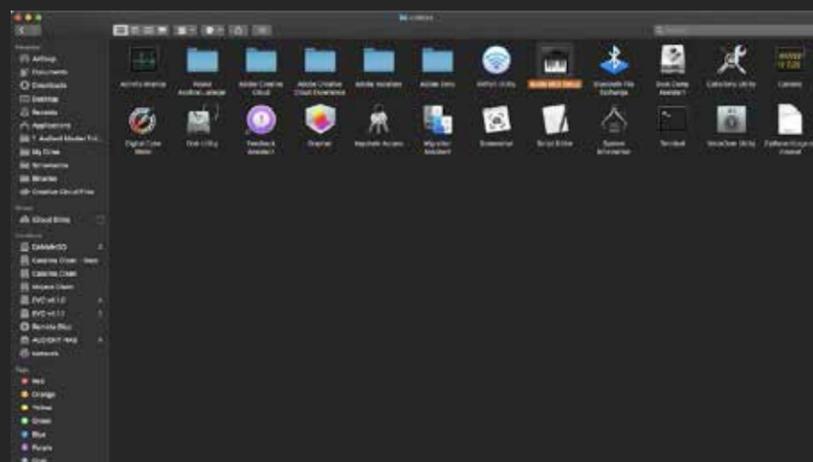
ソフトウェアでこの変更ができない場合（webブラウザー又はビデオコールサービス）は、出力セッティングをMac Audio MIDIセットアップで行います。

Mac Audio MIDIセットアップを開けるには、図のようにファインダーを開けてクリックします。

Applications > Utilities > audiomidisetup.app

次にデバイスリストからEVO 4を選び、スピーカー設定をセレクトします。

Applications > Utilities > audiomidisetup.app



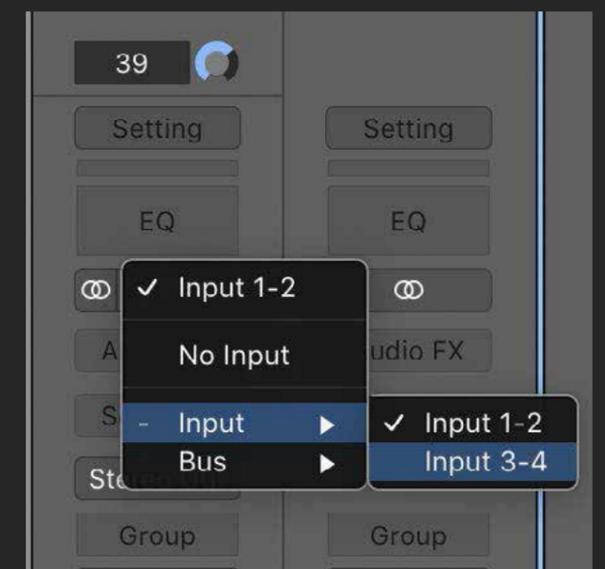
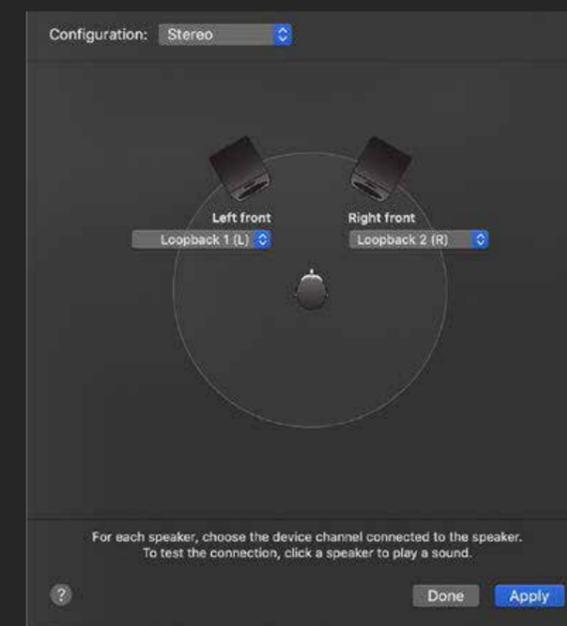
AUDIO LOOP-BACK

Configure Speakers



L/R出力をLoop-back 1 (L)とLoop-back 2 (R)にセットします。これでMacからの全ての出力は、ループバック・ミキサー（loop-back Mixer）経由になり、録音やストリーミングの準備ができました。

ここで、ループバックの出力がセットされ、録音やストリーミングのソフトウェアを開いてオーディオをキャプチャーして、そのオーディオをループバック入力へ送ります。ソフトウェアにもよりますが、Loop-back 1+2又はInput 3+4と現れます。



AUDIO LOOP-BACK

AUDIO LOOP-BACK (ループバック)

Windowsでのループバックチャンネルの使用

macOS同様、ループバックを使用するファーストステップは、コンピューター出力をEVO 4のループバック出力に変更します。一部のソフトウェアでは、ソフト内で変更して設定できます。その方法に関してはソフトウェアメーカーのサポートを受けるか、マニュアルを参照してください。

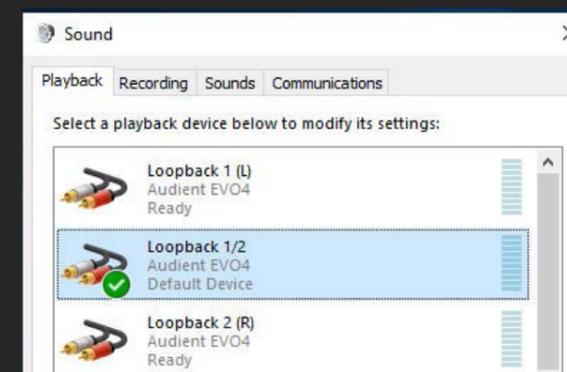
ソフトウェアでこの変更ができない場合(webブラウザまたはビデオコールサービス)は、出力セッティングを**Windows Sound Settings**でセットアップします。

Control Panel > Hardware and Sound > Sound の順序で、プレイバックタブを選択します。

図のように出力デバイスリストからLoopback1/2を選択し、『SetDefault Device』 デフォルトデバイスをクリックします。アプリはこれでオーディオをループバック出力(Loopback output)へ送ります。

ループバック出力からループバック入力へ送ることをEVO 4へ指示が必要です。この設定は、EVOアプリメニューバーで『Set Loopback Source』をクリックします。ループバックセンドがループバックソースになりました。

最後に、レコーディング又はストリーミングソフトを開けて、Loopback 1+2を入力に設定します。入力信号がモニターできるように、レコーディング又はストリーミングソフトを設定します。



スペシフィケーション

マイクプリアンプ:	
マイクゲイン:	-8 to +50 dB
ライン入力ゲイン:	-18 to +40 dB
ファンタム電源:	48v +/-4v @ 10mA/Channel
CMRR:	>85dB @ 1kHz
最大入力レベル:	+16dBu
入力インピーダンス(Mic):	>3kΩ バランス
入力インピーダンス (Line):	>10kΩ バランス
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to 40kHz
クロストーク:	<-105dBu @ 1kHz & 10kHz
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.0015%
SNR:	100dB
マイク入力 EIN:	<-128dBu
XLR:	Pin 2 (Hot), Pin 3 (Cold) & Pin 1 (Shield)
1/4" Jack:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)
D.I:	
(measured to insert send)	
D.I ゲイン:	-14 to +44 dB
入力インピーダンス:	+10dBu
周波数特性	1MegΩ アンバランス
THD+N @ 0dBu (1kHz):	<0.3%
SNR:	100dB
1/4" JACK:	TIP (Hot) & SLEEVE (Shield)

SPECIFICATIONS

DAC 出力:	
最大出力レベル:	+11dBu
デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +11dBu
出力インピーダンス:	<100Ω バランス
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	<-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.0015%
ダイナミックレンジ:	113dB A-weighted
1/4" Jack:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

ヘッドフォン出力:	
(measured to insert send)	
最大出力レベル:	+11dBu
デジタルリファレンスレベル:	0dBFS = +11dBu
出力インピーダンス:	<50Ω バランス
周波数特性:	+/-0.5dB 10Hz to Fs/2
クロストーク:	-110dBu @ 1kHz
THD+N @ -1dBFS (1kHz):	<0.0015%
ダイナミックレンジ:	113dB A-weighted
最大レベル 30ohms:	+0.5dBu, 0.0025% THD+N, 1.16Vpk Power: 45mW
最大レベル 60ohms:	+4.22dBu, 0.0015% THD+N, 1.78Vpk Power: 52mW
最大レベル 600ohms:	+10.1dBu, 0.0018% THD+N, 3.52Vpk Power: 20mW
1/4" Jack:	TIP (Hot), RING (Cold) & SLEEVE (Shield)

SPECIFICATIONS

USB 2.0 HIGH SPEED

入力チャンネル	2 Analogue
出力チャンネル	2 Digital
コネクタ:	USB Type-C
同梱ケーブル:	1m USB 2.0 Type-C to USB Type-A

DSP ミキサーレイテンシー (IN → OUT) :

44.1 kHz	0.594ms
48.0 kHz	0.552ms
88.2 kHz	0.302ms
96.0 kHz	0.281ms

※ レイテンシーのパフォーマンスは、バッファサイズ、CPUの負荷、OSによって異なります。

SPECIFICATIONS

DAW 再生レイテンシー (@ 32サンプルバッファでのソフトインストルメントの再生) :

44.1 kHz	~2.5ms
96.0 kHz	~2ms

DAW ソフトウェアモニターレイテンシーレイテンシー @ 32サンプルバッファ (IN → OUT) :

44.1 kHz	5ms
96.0 kHz	4.1ms

サイズ、重量:

重量:	本体:	360g
	パッケージ:	600g
サイズ:	本体:	140mm (w) x 67mm (h) x 67mm (d)
	パッケージ:	172mm (w) x 88mm (h) x 97.5mm (d)

SPECIFICATIONS

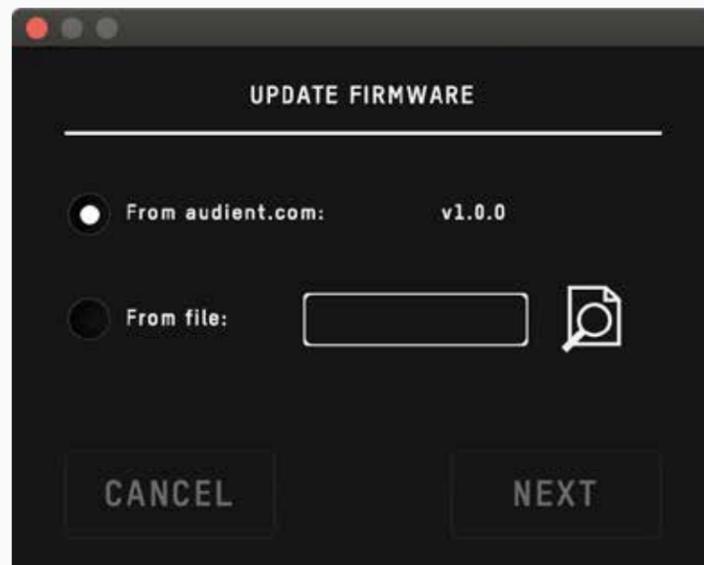
ファームウェアアップデート

ファームウェアをアップデートするには、EVO Application (アプリ) メニューでUpdate (アップデート) をクリックします。

この状態でコンピューターをネットに接続すると、EVO appがファームウェアアップデートの有無をチェックします。

ファームウェアアップデートがある場合は、直接インストールしてください。1分程度で完了します。このアップデートの前に、スピーカーのスイッチを必ずオフにしてください。

このアップデートプロセス中に、EVOは何度かリスタートがかかります。完了後、USBケーブルを外し、数秒待ってから再接続して完了です。



FIRMWARE UPDATE



FIRMWARE UPDATE

品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書(購入期日及び販売店捺印必須)を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合がございます。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行ってください。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ(メールのみの対応です。)ご連絡下さい。

Web: www.allaccess.co.jp

Mail: audient@allaccess.co.jp

evo
by *audient*

WARRANTY

audient 正規輸入代理店

オールアクセスインターナショナル 株式会社

営業所 〒490-1116 愛知県あま市本郷四反田2-7 ☎052-443-5537

www.allaccess.co.jp